

令和 3 年度自己評価結果

習志野みのり幼稚園

令和 3 年度の活動を振り返り、教職員一人一人が自らの教育活動や状況を客観的に評価いたしましたので、その結果をご報告いたします。

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染防止対策と充実した保育の両立、という難しい課題に取り組んだ一年でした。「新しい生活様式」のもと、幼児期に必要な体験や活動ができるよう職員間で話し合い、一人ひとりが知恵を絞りながら努力を積み重ねてきました。時には、保育活動を一から見直したことで新たな発見があり、よりよい活動につながったこともありました。また、行事について保護者の皆様からご意見をいただいたことで気付かされたこともありました。新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら充実した保育を行うことは、既成概念にとらわれず、保育活動を見直す機会にもなったと感じています。また、子ども同士が触れ合って遊ぶこと、歌を歌うことなど、新型コロナウイルス感染防止対策で昨年度は制限せざるを得なかったことの大切さを再認識しました。

新型コロナウイルス感染防止対策でさまざまな制限がある中、従来通りの保育を行うことは、決して容易いことではありませんが、園児の健やかな成長のため職員が取り組んできたことに、保護者の皆様にご理解、ご協力いただけたことに感謝しております。

令和 3 年度の評価結果を深く受け止め、より良い保育環境の整備、更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めてまいります。

1. 本園の教育目標

- ・ 安全で幸福な生活を送るための基本的習慣、心身の発達、豊かな感性、自主性、社会性を、子ども自身の主体性のある遊び、クラス活動、オープン保育、音楽、体育、国語教育、造形活動等を通し育む。
- ・ 一人一人の発達の状況個性を踏まえ、子ども同士の関わり合いを尊重し子どもに寄り添った保育をする。
- ・ 将来、社会の中で喜びを持ってその発展に寄与することができる人間性を育む。

(具体的教育目標)

- ・ 運動感覚を養い健康な体作りのサポートをする。
- ・ 安定した情緒の下で自己を発揮できるように配慮し、子どもの主体的な活動を促し、自己肯定感を育む。
- ・ 子ども同士の遊びの中の関りを重視し社会性を養う。
- ・ 日常会話、読み聞かせ等を重視して表現力、豊かな感性を養う。
- ・ 子どもの興味のある事象を尊重し自主性、意欲、問題解決能力の育成を目指す。

2. 本年度、重点的に取り組んだ目標・計画

評価項目に従って自己点検、自己評価を実施することによって全ての職員が自園を見る目を養い、教育内容、教育環境の設定の改善に主体的に取り組む。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況	評価
幼稚園教育要領、子どもの実態をふまえた教育課程の作成、保育をする。	子どもの実態をふまえた教育やカリキュラムを組むことは概ねできているが、幼稚園教育要領への理解はさらに深めていく必要がある。	B
子どもの実態を的確につかみ具体的な日案作成をする。	子どもたちの成長度合いや様子、行事や学年ごとの制作などのスケジュールを考慮しながら日案作成することは概ねできている。また、当日の子どもたちの様子や天候に合わせて日案を変更するなど、臨機応変に対応できているケースもある。	B
正しい姿勢、バランス感覚が身につくような声かけ、取り組みを行う。	朝の集まりや話を聞くときの姿勢に対する声かけは、できている。担任による漢字指導や鼓笛指導時にも正しい姿勢を身につける取り組みをしている。また、専門講師による幼児体育、サッカー、剣道、新体操などの指導を通じて正しい姿勢やバランス感覚を養っている。	A
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	手洗い・うがい・排泄などの基本的な生活習慣に始まり、食事や睡眠をとること、また身だしなみなど年齢に合わせた指導をしている。長期休み期間の規則正しい生活や、コロナウイルス対策（手洗い・マスクの着用等）指導も行った。	A
安全で興味の引く保育環境を用意する。	子どもたちが安全に楽しく過ごせるように保育室や園庭、遊具の安全管理に十分注意した。また、コロナウイルス対策で机や椅子、保育用品等の消毒を徹底した。 子どもの好奇心を尊重し、学ぶことの楽しさを実感できるようにオープン教育を取り入れているが、今年度は全体オープン保育が実施できなかった。そのため、各クラス、学年でさまざまな工夫や遊びを取り入れながらオープン保育や日常保育を行った。	B
子どもの良さを認めて評価する。	子どものよいところ、頑張ったところ、できるようになったことは評価し、褒めるように心がけ、実践できている。 子どものやる気につながるような褒め方・評価の仕方ができるように工夫しようとする姿も見受けられる。	A
日常会話、季節の歌、読み聞かせ、制作を通し表現力を養う。	コロナウイルス対策のため、歌の指導は十分に行うことはできなかった。そのため、紙芝居・読み聞かせ・絵本の時間を多くとり、伝え方（話し方）を工夫する、季節感のあるものを選ぶなど、言葉による表現の楽しさや季節・文化を学べるようにした。 制作や絵画では、季節や文化を学びながら想像力やコミュニケーション能力を養えるよう、材料を使いながら保育を行っている。	B
遊びを通して工夫したり協力したりする姿を見守り、援助する。	学年によって子どもへの関わり方は異なるが、基本的には子どもの想像力、自主性、協調性を尊重し、見守っている。 また、トラブルを未然に防げるように必要に応じて援助や手助けをしている。	B
各クラスで起きた事案を園全体で共通理解しそれぞれの保育に役立てる。	コロナウイルス対策で保育者が対面式で集まることを控えていたため、コロナ前の年度に比べると情報交換の機会が減ってしまった。園全体で共通理解すべき案件については、朝礼や終礼だけでなくSNS等により周知するようにした。その他の案件については、クラス、学年で共有するようにした。 ケガ・病気については看護師に任せているが、タイムリーな情報共有について検討したい。	B

評価項目	取組状況	評価
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	コロナウイルス対策で保育者が対面式で集まることを控えていたため、学年会を開催する機会が減り、十分な時間を確保できなかったため、学年によっては学期ごとの各クラスの経営の成果と課題報告を行えなかった。ただし、日々の保育については、各学年内で状況報告、相談を行い、保育に役立てていた。保育者個人の学期ごとの反省・振り返りを行い、園長にレポートしているが自由文形式であるため、定量的な観点には欠ける。	B
各職員が研修会に参加し他の職員へ伝え、その成果を保育に生かす。	コロナウイルス対策で対面式の研修には参加できなかったが、オンライン形式の研修には参加できた。また、参加した職員がその内容や成果を伝えることで、他の職員と共有できた。	C
園だより等をとおして幼稚園の情報を発信していく。	毎月、クラス便り・学年便り・行事予定表を発行し、幼稚園の情報を発信している。また、今年度からみのりっこだより(不定期)、保健だよりが加わり、情報発信ツールが増えた。更に必要に応じてお知らせ(紙、れんらくアプリ)を出して、タイムリーな情報提供を心掛けている。 今年度は、年少と年中の保育参観を実施できなかったため、保育の様子を動画撮影し、各クラスに配信した。	A

<評価の基準> A:十分に達成されている、B:達成されている、C:取り組まれているが成果が十分でない

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合評価: B

各教職員が目標・課題を理解し自己評価することにより、取り組むべき課題を自ら認識し、改善していく意識が芽生え、取り組むよう努力する姿勢がみられた。

5. 学校関係者(保護者)からの評価

- ・ 出来ることなら、もっと行事に参加したかったが、コロナ禍のため仕方ない。先生方には感謝している。
- ・ コロナ禍ではあったが、様々な対策の下、行事を実施してもらい感謝している。
- ・ 作品展など、各学年で制作した作品を見て、大きな成長が感じられて嬉しかった。

6. 今後、取り組むべき課題

幼児教育の大切さを再認識し、どのような環境下であっても、子どもの健やかな成長を支えることができるように既成概念にとらわれることなく、工夫を重ねていきたい。

全ての職員が自園を見る目を養い、教育内容、教育環境の設定の改善に取り組み個々人の意識レベルを向上させるだけでなく、園単位(組織)での活動、情報共有の仕組みづくりにも取り組んでいきたい。

また、より安心・安全な保育を実施するための環境設定、各教諭の資質の向上にも努めたい。

(具体的目標)

- ・ 安全管理

毎年、引渡訓練と防災訓練を実施しているが、災害時の各職員の対応訓練、不審者対応訓練が十分ではないので、今後は実地訓練を行いたい。

- ・ 教諭の資質の向上

オンライン研修を取り入れるなど、職員が研修に参加しやすい環境を整えるとともに、職員一人ひとりの資質向上に対する意識付けをしたい。

- ・ 情報の共有化

IT化を進めながら、クラスで起きた事案、トラブル、怪我や病気等保育に関する情報の共有化、研修資料等保育技術に関する資料の共有化を図る。